

平成30年度第2回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	平成30年6月25日(月) 14:00~15:55		
開催場所	サンコスモ古賀 203 研修室	公開の可否	可
事務局	保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	なし
公開しなかった理由			
出席者	委員	森保之委員、青木扶美子委員、天久真吾委員、伊豆剛直委員、角森輝美委員、神崎美春委員、末次威生委員、薄秀治委員、藤田勉委員、前野恵理委員、金子美聡委員、久保田純子委員	
	事務局	野村保健福祉部長、村山子育て支援課長、洪田子育て支援係長、坂井保育・手当係長、本田子ども家庭係長、佐藤子育て支援係員	
	その他	なし	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回会議の議事録について ・子ども・子育て支援事業計画に係る平成29年度施策の取り組みの進捗状況について ・子ども・子育て支援事業に係るニーズ調査について 		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料1 「子育て会議 (H30第1回) 議事録」 ○資料2 「H29事業評価一覧」 ○資料3-1 「ニーズ調査の対象者と調査方法」 <li style="padding-left: 20px;">3-2 「ニーズ調査の内容」 <li style="padding-left: 20px;">3-3 「アンケート項目比較表」(H25年度・H20年度) ○アンケート素案(4種類) 		

○次第

1. 開会あいさつ
 2. 会長あいさつ
 3. 第1回会議の議事録について（資料1）
 4. 子ども・子育て支援事業計画に係る平成29年度施策の取り組みの進捗状況について（資料2）
 5. 子ども・子育て支援事業に係るニーズ調査について（資料3-1, 3-2, 3-3）
 6. その他
-

平成30年度第2回古賀市子ども・子育て会議（概要）

1. 開会あいさつ

2. 会長あいさつ

3. 第1回会議の議事録について（資料1）

特段修正意見がなく、承認される。

4. 子ども・子育て支援事業計画に係る平成29年度施策の取り組みの進捗状況について（資料2）

事務局より、資料2に従い、取り組み成果の確認方法について説明の上、詳細については第4回会議（11月開催予定）にて取り扱う旨、説明を行う。それに伴い、別紙質問票へ質問内容を記入し、第3回会議までに事務局へ提出いただくよう依頼する。

5. 子ども・子育て支援事業に係るニーズ調査について（資料3）

事務局より、ニーズ調査の概要について説明した上で、資料3-1に従い、平成30年度に実施するニーズ調査の対象者及び調査方法案について説明を行う。

委員からの意見は次のとおり。

（委員）平成25年度調査に比べ、就学前保護者の対象者数が減っているが、母数が減っているのか。

（事務局）0～6歳の人口数が減っていることは事実だが、今回は調査方法を見直しアンケート回収率を上げることで十分なサンプル数を確保したい。前回は全員郵送による配布・回収であったのに対し、今回は就園児は保育所・幼稚園を通じて配布・回収を考えている。昨年度別調査で小学校等を通じて回収したが、90%以上の回収率となった。

続いて、事務局より、資料3-2, 3-3, アンケート素案（4種類）に従い、アンケートの各設問の説明及び修正を行う。保育サービスなどの利用状況・利用希望の設問は量の見込みを算定するための設問のため削除できないこと、紙面の都合上設問数を大幅に増やすことは難しい旨、

補足説明を行う。その後、2グループに分かれ各設問について協議・検討する。

グループ1 森会長、伊豆委員、藤田委員、青木委員、末次委員、久保田委員

グループ2 角森委員、薄委員、天久委員、神崎委員、前野委員、金子委員

各委員からの意見は次のとおり。

【調査対象者について】

(会長) 高校生のグループヒアリングについて、対象となる高校は古賀市内の高校か。

(事務局) 古賀市内2校(古賀竟成館高等学校、玄海高校)への依頼を考えている。

(委員) 高校が同じだと意見も偏るのではないか。古賀市の高校の生徒ではなく、古賀市在住の高校生を対象とするなど、できるだけ多様な意見が出るよう選定を工夫したほうがよい。

(会長) 人数についても、2回開催するのであれば、各回20名程度は確保したほうがよいのではないか。

(委員) 地域支援者はなぜ30人なのか。対象者は誰か。

(事務局) 各グループ15名×2回を想定している。対象者はミニつどいや応援サポーター、子育てサークルなど、市の事業に関わる方たちに依頼したいと考えている。

(委員) 子育てサークルだけでも複数ある。どのサークルを選ぶかも難しいのではないか。

(委員) 小学校では読み聞かせや放課後ひろばなどでも地域の人関わっている。

(会長) 人数を限定せず、例えば各サークル・団体から1名ずつ出してもらうなど、対象の幅を広げてはどうか。

(会長) 小学生保護者については、案では低学年(2年生)と高学年(6年生)になっているが、中学年(4年生)も対象にした方がいいのではないか。中学年は保護者の関心が低・高学年に比べ薄くなる時期なので、その年代の子をもつ保護者にアンケートを実施することは意味がある。

【就学前児童の保護者アンケートについて】

(事務局) 問10や問18について、「児童館・児童センター」とまとめて記載しているが、施設ごとに記載する必要性はないか。

(委員) 各施設で利用人数は把握しているはず。問1で「お住まいの地区」を尋ねているので、各地区の児童館・児童センターと紐づけられる。全体の利用状況がわかればよいのではないか。

(委員) 問7-1について、母親の就労希望を尋ねる項目に、「自身は就労を希望していないが家族からの要求で就労せざるを得ない」項目を追加してはどうか。そういった状況にある人がいるのも事実なので。

(事務局) 量の見込みの算定に関わる設問なので、追加できるかどうか検討する。

(委員) 「その他」として項目を追加してもよい。

(委員) 問9について、ファミリーサポートセンターの費用負担は、30分利用しても1時間利用と同じ700円だが、それがわかるように記載しなくてよいか。

(委員) 表の上に「費用負担のめやすを・・・」と書かれてあるので、このままでもよいのではないか。

(委員) 問13-2について、病児保育・病後児保育の実施している場所を追加したほうがよいのではないか。

(委員) 問27について、情報入手場所の選択肢の中に、「こもこも」と「子育てBOOK」も加えたほうがよいのではないか。

(委員) 「赤ちゃん訪問」と「保育所・幼稚園」も加えたほうがよいのではないか。

(委員) 問28について、ツイッターやインスタなど、表記をローマ字かカタカナに統一したほうがよい。

【小学生・中学生本人アンケートについて】

(事務局) 問1について、性別を問う必要があるか。本会議の前に実施した庁内会議でも、「設問によっては回答内容に性差が出るので尋ねた方がよい」という意見と、「性差によって対処法が異なるものでもないので不要」という意見が出た。

(委員) 現在LGBTの考え方が教育現場でも広がっている。男女差と今後の事業との関連性を見ていくのであれば含めた方がよいが、特になければ含めなくてよいのではないか。

(委員) 目的に合わせるなら不要。入れるなら、最後に入れ自由に書いてもらえるようにするのはどうか。

(委員) 問7について、「スポーツクラブ」という言葉はピンとこない。例えば学校外のサッカーチームであれば「クラブチーム」という言葉を使っている。

(委員) アート教室も限定的ではないか。絵画のみを連想する。

(委員) 「あそび」という項目について、中学生は3年生を対象にすることなので、削除してもよいのではないか。

(会長) 「音楽教室」も限定的。「教室」を削除し、アート教室のところを「文化系の習い事(書道・絵画など)」としたほうがよい。

(委員) 「○は3つまで」は不要ではないか。または「あてはまるものすべて○」にするのはどうか。

(委員) 小学生保護者アンケートの問7では、「3. 習い事(ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など)」とひとくくりになっている。小中学生アンケートでは選択肢を分けているので、合わせた方がよいのではないか。

(委員) 問9について、「オンラインゲーム」の定義づけがあったほうがよいのではないか。「オンラインゲーム」と聞くと、ネット上で対戦相手がいるゲームのみを連想する。

(委員) インターネットを使用したゲームであれば、「ネットゲーム」や「ネットでつながるゲーム」などの表現を使ったほうがよい。

(委員) 問8について、設問がわかりにくいいため、「あなたの居場所として」という言葉を加えて

はどうか。

(会長) 問12について、「参加した」「しなかった」という選択肢は設問に対して合わないところがあるので、「ある」「ない」という表現にしてはどうか。

(事務局) 本日いただいた意見をもとに、再度次回会議で協議し、アンケートを完成させたい。なお、7月中旬に「量の見込みの算出のための手引き」が国から出る予定となっている。それによつては、アンケートの内容が一部変わることがある。

6. その他

次回会議日程については8月下旬を予定しており、後日FAXにて通知する旨、説明する。